

ブロードバンド時代の新たな教育ソリューション 「ブレンディッドeラーニング」の展開

NTTラーニングシステムズ株式会社 総合研修事業部

1. NTTラーニングシステムズとeラーニングの関わり

NTTラーニングシステムズ株式会社（以下「NTT-LS」といいます）は、1987年に創立されたNTTグループの教育研修会社です。創立時は、レーザーディスクとパソコンを組み合わせた当時としては画期的な映像を利用した教材とシステムを提供する会社でした。その後、これらの教育研修事業と関連するドキュメント制作事業、映像制作事業、インターネット事業などの領域に事業を広げ、現在では、NTTグループのみならず、企業向けの教育研修を幅広く提供する会社です。NTT-LSは会社創立当初のeラーニングの原点ともいえるレーザーディスクによる映像教材から、CD-ROMなどのマルチメディア技術の発展、そしてインターネットの発展にあわせてeラーニングにも一貫して取り組んでおり、以下NTT-

LSの最近のeラーニングの取り組みについてご紹介します。

2. eラーニング提供の3つのモデル

現在、NTT-LSでは、eラーニングについて利用方法や特徴により次の3つのモデルに分類しサービスを提供しています。

- ①「オンデマンド型 eラーニング（単独）」モデル
 - ②「オンデマンド型ブレンディッド eラーニング」モデル
 - ③「双方向ライブ型ブレンディッド eラーニング」モデル
- それぞれの提供方法や特徴は表1のとおりです。
これら3つのモデルはどのようなeラーニングなのでしょう。

表1 「NTT-LSでのeラーニング提供の3つのモデル」

モデル名	提供方法	特徴
①「オンデマンド型 eラーニング（単独）」モデル	eラーニング単独による利用	eラーニングを単独で利用し、いつでも自分のペースで学習できる従来多かった実施パターン
②「オンデマンド型ブレンディッド eラーニング」モデル	eラーニングと集合研修等の従来型の研修を組み合わせた「ブレンディッド・ラーニング」	eラーニングのよいところ、集合研修のよいところを組み合わせた「いいとこどり」のeラーニング
③「双方向ライブ型ブレンディッド eラーニング」モデル		ブロードバンドを利用して、離れた場所でもあたかも同じ教室にいるかのように文字どおり双方向でライブな研修が受けられるeラーニング

3. ①「オンデマンド型 eラーニング (単独)」 モデル

「オンデマンド型 eラーニング (単独)」は、一般的に最もよく利用されている形態のeラーニングです。ネットワークを通して自分の好きなときに（オンデマンドで）マイペースで学習できるため、オンデマンド型と呼ばれます。オンデマンド型の学習教材では、Webサイトでもよく利用されるFlashと呼ばれる技術により、内容を説明するナレーション（声）に合わせて、画面上のイラストが動くような表示方法で学習させる教材が多くなっています。次に、このような「オンデマンド型 eラーニング (単独)」では、どのような教材が学習されているのかご紹介します。

NTT-LSでは、主としてNTTグループ企業や一般の企業に対してオーダーメイドでの教育研修を提供していますが、eラーニングの売上げ構成比は約10%です。また、教育研修ポータルサイト「Learning Site21.com」という、約1000種類の集合研修・eラーニング・通信教育を検索・申し込みできるWebサイトを運営しており、個人のお客様からご利用いただいています。このような場合にはオーダーメイドではなく、あらかじめ用意されたレディメイドのeラ

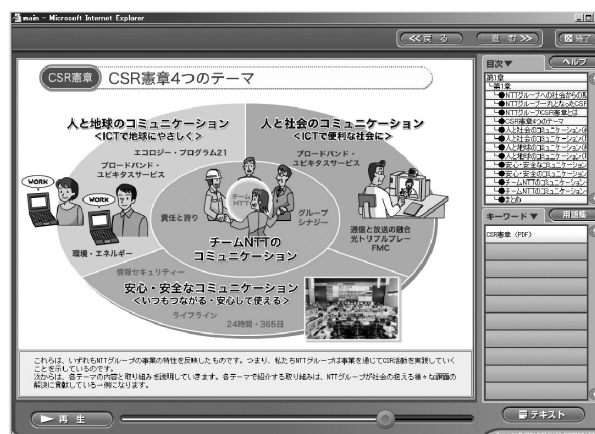


図1 「オンデマンド型eラーニング」の画面例

ーニング教材を提供します。2005年のNTT-LSでの個人や小規模企業へのeラーニング提供の分野は表2のようになっており、最も受講が多い分野はIT・コンピュータの分野でした。これは、eラーニング白書2006におけるユーザの利用の意向からみた一般的な動向とも合致しています（表2 一般的な動向（『eラーニング白書2006年版』「eラーニングが導入されている分野」より抜粋））

しかし、大企業での社内利用では動向が少し異なります。表3はNTT-LSが2005年に提供した大企業向けのオンデマンド型eラーニングの実績です。昨今の個人情報保護や情報セキュリティに関する社会的関心の高まりから、企業ではこのような分野の研修を特定の時期に全社員に受講させる必要に迫られて

表2 「NTT-LSにおける個人受講・小規模企業受講の分野別受講数と一般的な動向の比較」

順位	レディメイドeラーニング教材の分野	NTT-LSにおける受講数		一般的な動向(※)	
		延べ受講者数	比率	順位	利用の意向
1	IT・コンピュータ	3,173	64%	1	70%
2	社会通念（ビジネスマナー・セクハラ防止 等）	1,235	25%	4	23%
3	経営・管理（プロジェクト管理・企画・経営学・ISO取得等）	267	5 %	3	24%
4	ビジネス（経理・法律・金融・不動産 等）	129	3 %	5	22%
5	語学	118	2 %	2	27%

※『eラーニング白書2006年版』「eラーニングが導入されている分野」より抜粋。

表3 「NTT-LSにおける大規模企業の受講数（2005年）」

企業名	概要	受講対象者	受講人数
NTT-A社	個人情報保護のeラーニングを学習するもの	社員全員	約7万人
NTT-B社	情報セキュリティについてeラーニングでチェックするもの	社員全員	約2万人
NTT-C社	成人病対策などの健康問題についてeラーニングで学習するもの	社員全員	約7千人
D社（製造業）	企業ビジョンをeラーニングで学習するもの（海外向け）	海外事業所	非公表
E社（サービス業）	企業倫理をeラーニングで学習するもの	社員全員	約2万人

います。全社員に受講させるには個人ごとに受講履歴が管理できるeラーニングの形態が最適です。このような場合には、社員個々が自分で受講の時間を選択できるオンデマンド型が向いています。今後も全社員受講型には「オンデマンド型 eラーニング（単独）」モデルが利用されるでしょう。

4. オンデマンド型eラーニングとブレンディッド・ラーニング

オンデマンド型eラーニングは、好きなときに自分ひとりで学習できるなどの特徴を持った学習形態です。しかし、同時に企業の教育研修で利用するには次のような課題も抱えています。

表4 「企業におけるeラーニングの抱える課題（NTT-LS調べ）」

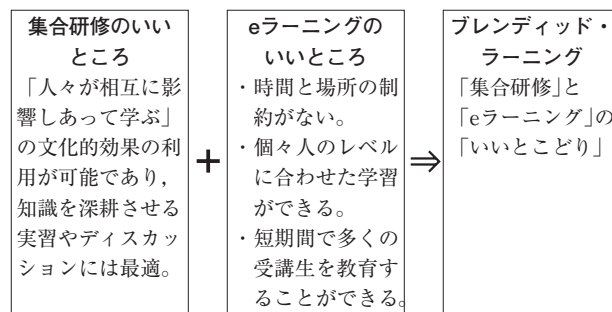
企業側	eラーニングの抱える課題
企業の教育研修担当者にとって	①高度な知識習得・実習には不向き。 ②システム導入・運用に多くのノウハウが必要。サポートが機械的になりがち。 ③eラーニング教材の絶対数不足。ニーズにマッチした教材の目利き力がほしい。コンテンツの開発に手間・ヒマ・コストがかかりすぎる。 ④学習が完了できない人が発生する。
企業の経営者にとって	①現場における問題・課題に対し、eラーニング(eマニュアル)さえ導入すれば解決するとの誤った認識がある。 ②スピーディに変化する業務知識、商品知識などを追いきれない。 ③eラーニングも集合研修も効果を測定することが難しい。

このように企業がこれまでeラーニングについてかかえる課題に対し、「集合研修」と「eラーニング」の「いいとこどり」をし解決策を提示するのが「ブレンディッド（組み合わせた）ラーニング」です。

5. ブレンディッド・ラーニングの種類

特にNTT-LSでは、これまでの企業教育で培った豊富な経験とノウハウを生かし、社会インフラ化したブロードバンド・ITを駆使して、より一層の高い

表5 「ブレンディッド・ラーニング」は「いいとこどり」



教育効果、効率化を図り、継続的な学習環境を実現するために「ブレンディッド・ラーニング」を提供しています。NTT-LSで提供する「ブレンディッド・ラーニング」は、大きくオンデマンド型と双方向ライブ型に分けられます。では、まず「オンデマンド型ブレンディッド eラーニング」モデルの例をご紹介します。

6. ②「オンデマンド型ブレンディッド eラーニング」モデルの例

NTT-LSの提供する、「オンデマンド型ブレンディッド eラーニング」モデルの代表的な例が「NTTコミュニケーションズ インターネット検定」通称「.com Master（ドットコムマスター）」資格取得のためのブレンディッド・ラーニングです。

「NTTコミュニケーションズ インターネット検定」はインターネットやパソコンの知識・スキルを問う検定です。この検定は、製品に特化したベンダー資格ではなく、インターネットを基盤にしたビジネスを行ううえで、私たちが知っておかなければならない内容について、IT技術からインターネット関連法規等に至るまで、偏りなく、かつ業務に必要な実践的知識や能力を要求しており、その普遍性からインターネット協会、日本インターネットプロバイダ協会の自治体などで推薦をいただき、社会人や大学生・専門学校生に人気の資格試験となっています。

NTT-LSでは、このドットコムマスターの公式パートナーとして、書籍から、eラーニング、通信教育、集合研修までをフルラインナップで取りそろえてい



図2 「.com Master (ドットコムマスター)」のブレンディッド・ラーニングの例

ます。これらを組み合わせて、学習者に合わせた最適な「ブレンディッド・ラーニング」でお届けしていますが、特にeラーニングと書籍・集合研修（受験対策コース）はeラーニングで効果測定が可能で学習レベルに応じた受験対策が実施できるため、企業向けには最適なブレンディッド・ラーニング（この場合は「オンデマンド型ブレンディッドeラーニング」）となっており、多くの企業で社員のITスキルアップのために利用されています。

7. ③「双方向ライブ型ブレンディッドeラーニング」モデル(MICE)の例

「双方向ライブ型ブレンディッドeラーニング」として、NTT東西会社に2005年下期から提供しているMICEがあります。MICE（マイス）とは、Multifunctional Interactive Creative E-learning systemの略で、ブロードバンドを活用し、ライブ映像と双方向機能を駆使した臨場感溢れる研修実施が可能です。

MICE研修では、スタジオで撮影した講義をNTTのブロードバンドネットワーク「Bフレッツ」を使って全国の離れた教室に送信し、教室では受講生がプロジェクターなどに映し出された講師の映像を見ながら講義を受けます。この点は、従来の衛星通信を使った「衛星通信を利用した遠隔講義」と見た目は似ています。しかし、異なる点は、受講生の机の上にはそれぞれPCが設置されていることです。このPCの画面上には、講義に使用するテキストが表示されるほか、チャット機能で講師に質問をしたり、ア

ンケート機能で受講生の理解度や反応を即座に集計できるのです。このため、MICE研修では、離れた場所でも研修が受けられる同期性の利点のほかに、みんなでディスカッションできる双方向性、講師が受講生の反応をすぐ把握しながら研修をできる即時性など表6のような大きな利点があります。



図3 「③「双方向ライブ型ブレンディッドeラーニング」モデル(MICE)」のイメージ

表6 MICE研修の特性とITツール機能

○MICE研修の特性 ①同期性 (講師映像のライブ配信) ②双方向性 (みんなでディスカッション) ③即時性 (受講生の反応をすぐ把握) ④利便性 (職場の近くで参加) ⑤即納性 (手持ち資料を簡単に教材化)	○ITツール機能 チャット機能、 アンケート・テスト機能、 ボイス機能 等
--	---

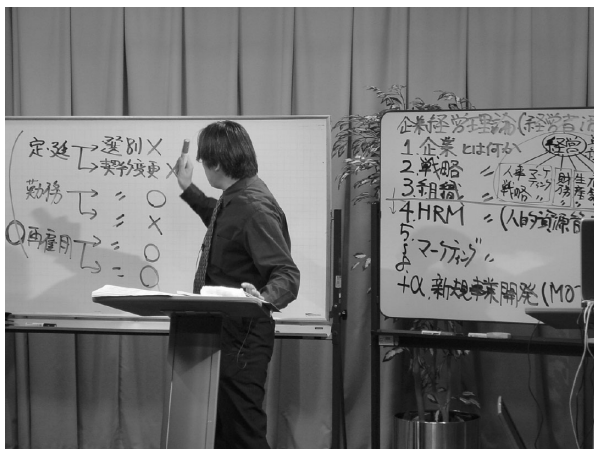


写真1 MICE研修風景（スタジオ側）



写真2 MICE研修風景（教室側）

このように優れた特性を持つ「双方向ライブ型ブレンディッド eラーニング」モデルのMICE研修は、NTTの東西会社においてすでに延べ約2,000名の受講実績を持ち、「現場業務繁忙とタイムリーな能力開発のジレンマ解決」、「ナレッジの共有・活用」を提供します。また、今後はその特性を生かした「企業内での新製品説明会」「支店長会議」などへの応用も含めて他の企業への導入が大きく期待されています。

ブロードバンドネットワーク化の進展により、教

育研修におけるeラーニングの役割がさらに重要となる時代になったのです。

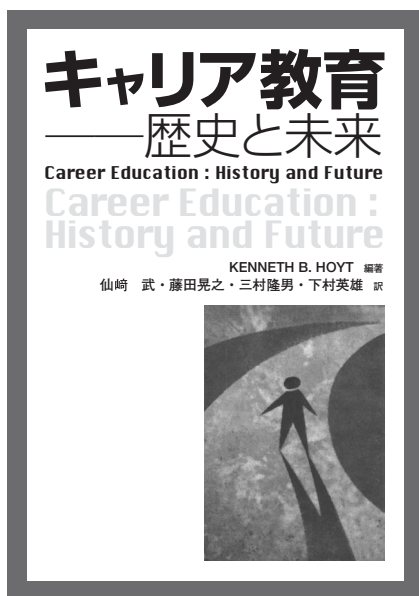
お問合せ先：

NTTラーニングシステムズ株式会社

総合研修事業部

eラーニングビジネス推進グループ

e-mail webs@hot.nttls.co.jp Tel 03-3440-1632



キャリア教育 ——歴史と未来

Career Education : History and Future

■KENNETH B. HOYT 編著

（原著 National Career Development Association 発行）

■仙崎 武・藤田晃之・三村隆男・下村英雄 訳

■A 5判/284ページ ■定価2,730円（税込）

ISBN4-87563-230-4

米“キャリア教育の父”ホイトによる
“キャリア教育史の記念碑的書”！

アメリカにおけるキャリア教育の歴史と具体的事例、理念、未来展望等を系統的に論じた関係者必携の書、待望の邦訳。

■発行所

社団法人 雇用問題研究会 <http://www.koyoerc.or.jp>

〒104-0033 東京都中央区新川1-16-14 電話 03-3523-5181（代表）FAX 03-3523-5187